

2022 年度:こども園自己評価の報告書 とねやまこども園

評価項目	取り組み状況	
<p style="text-align: center;">教育・保育方針 教育及び保育の目標 全体計画・指導計画 こども園として特に配慮すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育・保育課程 ・ 教育環境の整備 ・ 研究の取り組み 等 	<p>「豊中市幼保連携型認定こども園全体計画」の目指す、こども像「人とつながり生きる力の基礎を培う」を目標とし、年間計画や月間指導計画を5領域や幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を意識して計画してきた。今年度の園内研究ではその子なりの表現（笑う・泣く・沈黙・表情・態度など）を受け止め、大人の持つ概念を押し付けずに、誰もがありのままの自分を表現することの心地よさを感じられるよう、子どもの豊かな感性や自尊感情をはぐくむ表現活動（ミュージックケア・描画・造形・気持ち）を学び実践してきた。</p>	
健康支援	<p>保健指導年間計画に基づき、園の子ども達の様子に合わせ、保健指導や保健管理をすすめてきた。身体計測時に体へ関心を向け、自分の体の大切さを知る機会を積み重ね、日々の教育保育の中で繰り返し伝えてきた。健康な体づくりや良い生活リズムを作る為、外遊びを大切にしてきた。コロナやインフルエンザなど感染拡大予防の為、健康観察を丁寧に行い、体調不良児の早期対応に努めた。</p>	
安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月の安全点検で施設や遊具などの安全確認を行い、破損や不具合がある場合は速やかに修繕依頼・撤去等の対応を行った。 ・ 火災・地震・不審者など様々な時間帯や土曜日にも避難訓練を行った。 ・ 交通安全教室ではとねっこおひさま会（保護者会）役員の方にご協力いただき、園庭の模擬道路を歩いたり、5歳児は実際に園周辺の横断歩道や道路を歩いたりする練習を行った。 	
食育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食事の時間が楽しいものとなるよう、子どもの様子に合わせて無理強いないせずつき好きな物が増えるよう励まし、食べた物が自分の体の基になり体の成長につながることや、食べ物の消化について知らせた。 ・ 園内の畑で菜園活動を行い、育てた野菜でカレー・味噌汁・大根ステーキ、大学いも、かぼちゃやゴーヤの素揚げなど調理して食べた。色や形の違いに気付いたり、はかりで重さを量ったり、皮むきなども手伝ったりすることで野菜が苦手な子ども「おいしい」と口にする姿が見られた。 	
<p style="text-align: center;">子育て支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入園している子どもの保護者 ・ 地域の子育て家庭 ・ 地域との連携 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子育てなど様々な悩みを相談される保護者も多い。職員が丁寧に話を聴くと共に、行事や懇談会の中で、保護者同士が知り合いつながれるような時間を持てるようにしていった。 ・ 地域の保護者と在園児の保護者のおしゃべり会を企画した。聞きたい事をメモにして来られた方もいて、子どもの発達的事や小学校の事などいろいろな話題が出て交流を持つことができた。 	
教育・保育内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 養護・健康・人間関係 ・ 環境・言葉・表現 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度、子どもの豊かな感性や自尊感情をはぐくむ表現活動について取り組んだ。各クラスの現状や個々の姿から、自分を表現することの心地よさを感じ、友達の表現を認め合えるような活動に取り組んできた。言葉による伝え合いだけでなく、表情やしぐさ、文字におこすなどいろいろな表現の仕方や違いを知り、思いが伝わる喜びや相手の思いを考えようとする子どもたちの姿が見られた。

<p>特別支援教育</p>	<p>箕面支援学校・児童発達支援センターより巡回指導を受け、子どもの姿から具体的な支援の方法を学んだ。講師を招聘し「ミュージック・ケア」を通して心地よいリズムや音などに触れた。また、児発センター所長より子どもの行動の意味や支援におけるアセスメント（客観的評価）や支援計画の立て方、目標設定について学んだ。こどもとの対話を重ねた信頼関係の築きや子どもの育ちを信じる大切さも学んだ。</p>
<p>職員の資質の向上</p>	<p>人権研修では①“人権擁護のためのチェックリスト”をもとに「子どもを尊重する保育とは何か」②「教育保育現場で起こる不適切な関わりについて考える」をテーマにグループワークを行った。③同和問題を取り上げ、寝た子を起こすな論について自身の考えをレポートにすることで振り返りを行った。また公開保育・保育会議・中間総括ではクラスの課題を出し合い、かかわりや環境を整える手立てについて学び話し合うことができた。</p>
<p>幼保こ小中の連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第十八中学校の1年生と年中・年長組が交流を行った。 ・年長組は刀根山・螢池小学校へ学校見学会へ出かけ、校内の説明を受けたりランドセルを背負ったりと、年長児が入学を楽しみにできるよう1年生が考え工夫された内容に、楽しい時間を過ごすことができた。
<p>関係者評価の取り組み</p>	<p>今年度、刀根山高等学校の校長や高齢者施設の職員に評議員メンバーに入っていた。高齢者施設とは交流ができなかったが、敬老の日には年中児からメッセージを届けた。障害のある人、高齢者など様々な人との出会いが大切であり、地域の人材を活かしながら、園が在園児だけでなく地域の親子にとっても遊びや相談のできる身近な場となるよう努めていきたい。</p>
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・13中校区の「レッツボランティア」に参加した。年長児が山ヶ池公園を清掃し、たくさんの落ち葉を袋に集め公園がきれいになったと喜ぶ姿が見られた。 ・「人権・平和の集い」では年長組の気持ちへの取り組みを発表し、クラスで大切にしている取り組みについて、保護者や関係機関に発信する機会を持つことができた。

○今後取り組むべき課題（重点的に取り組むべき課題）

課 題	具体的な取り組み方法
<p>・教育保育内容の発信と保護者との共有</p>	<p>研修や巡回指導、アドバイザー研修等で得た学びを実践し、クラスで大切にしていることや取り組みを発信しているが、活動や遊びがどのような力をつけたり仲間関係を育むのかを一方通行ではなく、共通理解できるように保護者に発信していく。</p>
<p>・園舎の建て替え工事に伴い、教育保育内容の充実や保証</p>	<p>建て替えに伴い園庭や畑が1年以上使用できなくなるので、小学校の校庭や公園を利用するなど、健康な心と体作りを行ったり自然との関わりを持つ場所や時間、教育保育内容を充実し保障できる環境構成を整えていく。</p>

令和5年（2023年）3月31日

豊中市立とねやまこども園

園長名 吉岡 一美